

他科の先生に
知って欲しい

豆知識・・・耳鼻咽喉科編⑮

良性発作性頭位めまい症 (BPPV) について

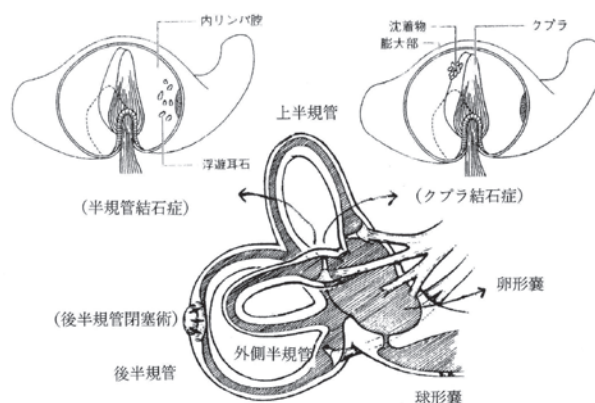
藤本耳鼻咽喉科クリニック 院長 藤本 政 明



良性発作性頭位めまい症 (benign paroxysmal positional vertigo) は、日常のめまい診療において最も多いめまい疾患です。大学病院のめまい専門外来では41.6%がBPPVであったとの報告もされていますので、我々開業医ではもっとその頻度は多いと思われます。ちなみに2番目はメニエール病で32.4%、3番目は前庭神経炎3.5%でした。

病態は、内耳の卵形嚢 (水平性直線加速度を感じる) にある耳石器の耳石 (カルシウム結石) が剥離し、半規管 (回転加速度を感じる) の中に迷入することにより発生するもので、耳石が最も迷入しやすいのは後半規管 (85～95%) で、次が外側半規管 (5～15%) となり上半規管に入ることはほとんどありません。

耳石が右後半規管に入った場合は、座った状態から懸垂頭位にすると (Dix-Hallpike法) 右回旋性めまいが起こり、その持続時間は1分以内です。左後半規管に入った場合にはその逆の左回旋性めまいとなります。また、耳石が右外側半規管に入ると、仰臥位から右側臥位にした時 (Head roll test) 右向き水平性めまいが起こり、やはり1分以内に消失します (半規管結石症)。しかし、外側半規管に入った場合は、耳石が外側半規管膨大部にあるクプラ (内リンパ液の流れを感じる) に付着してしまうことがあり、その場合はめまいの方向は逆の左向き水平性めまいで、そのめまいは減衰することなく持続します (クプラ結石症)。左外側半規管に入った場合にはその逆になります。



一部「良性発作性頭位めまい症 (BPPV) 診療ガイドライン」より転載

BPPVはその名前の通り良性のめまい疾患で、後半規管型BPPVでは39日で自然治癒し、1週間後の自然治癒率は63%、1カ月後の自然治癒率は65%とされています。外側半規管BPPV (半規管結石症) ではもっと短く13日、外側半規管BPPV (クプラ結石症) では9日で自然治癒するとされています。しかし、発症から1週間しても改善が見られない場合には、我々耳鼻科医は剥離した耳石をもとの位置に戻す耳石置換法 (後半規管BPPVに対してはEpley法、外側半規管BPPVに対してはGufoni法) を行います。患者さんが自分で試みるには、Brandt-Daroff法 (座位になり急速に右側臥位に倒し、45度上方を向いて30秒間維持した後もとの座位に戻る。その後反対の左側臥位に倒し、やはり45度上方を向いて30秒間維持した後座位に戻るを3～5回繰り返す) がよいと思います。

BPPVは1年以内に15～18%、3年間では30～50%が再発すると言われているので注意が必要です。

(この文章は「良性発作性頭位めまい症診療ガイドライン2023年版」を参考にして書いております。耳石置換法などの詳細については、そちらをご覧ください)